

# 非鉄金属概況

日本鉱業協会 企画調査部

## 銅

### 【海外】

#### 1. 価格推移



(2019年4月～2021年3月の値は月平均)

- ・ 世界経済の回復や脱炭素などによる需要期待とチリ供給懸念で\$1,200程度上昇
- ・ 4月29日は2011年2月以来の高値となる\$9,990

#### 2. 需給動向

国際銅研究会(ICSIG)の4月23日発表によると、2021年1月の世界の銅需給実績は以下のとおりで、需給バランスは2.8万tの供給過多だった。

<2021年1月の世界の銅需給実績表>

単位: 千トン

	2021年1月 実績	2020年1月 実績	増減率	2021年年間予測 (2021年5月発表)
鉱石生産	1,750	1,682	+4.0%	21,321
地金生産	2,097	2,061	+1.8%	25,167
地金消費	2,069	2,095	-1.2%	25,088
需給バランス	+28	-34		+79

(うち、中国の銅需給実績)

	2021年1月 実績	2020年1月 実績	増減率
鉱石生産	135	136	-0.5%
地金生産	862	846	+2.0%
地金消費	1,133	1,108	+2.3%

(出典) 国際銅研究会

国際銅研究会(ICSIG)の5月3日発表によると、2021年と2022年の世界の銅需給予測は以下のとおりで、2021年の需給バランスは7.9万tの供給過多になると予測されている。

<2021年・2022年の世界の銅需給予測>

単位：千トン

	2021年年間予測 (2021年5月発表)	2021年年間予測 (2020年10月発表)	増減率	2022年年間予測 (2021年5月発表)
鉱石生産	21,321	21,151	+0.8%	22,100
地金生産	25,167	24,815	+1.4%	25,937
地金消費	25,088	24,745	+1.4%	25,829
需給バランス	+79	+69		+109

(出典) 国際銅研究会

### 3. 供給障害

- ◆ セルビア政府、紫金鉱業集団にヤマ銅鉱山での建設作業停止命令(セルビア)
 

セルビアの鉱業・エネルギー省は4月14日、紫金鉱業集団(Zijin Mining Group、中国)に対し、環境基準を順守していないとしてヤマ銅鉱山(セルビア)における通気孔建設作業の停止と排水処理プラントの設置を命じたことを発表した。通気孔建設は騒音の問題、排水処理プラントの設置についてはペック川の汚染の問題が起因しているとみられている。これに対して紫金鉱業集団は14日、通気孔建設作業を停止したことを発表。ただし、坑内の開発は継続しているとした。ヤマ銅鉱山は4つの銅鉱山と1つの製錬所からなるボル銅プロジェクトの一つで、同プロジェクトは2019年に年間7.4万tの銅を生産。保有権益は紫金鉱業集団が63%、セルビア政府が37%。
  
- ◆ ターコイズ・ヒル・リソーシズ、オユ・トルゴイ銅鉱山の中国出荷を一部再開(モンゴル)
 

リオ・ティント(英豪)子会社で、オユ・トルゴイ銅鉱山(モンゴル)を保有するターコイズ・ヒル・リソーシズ(加)は4月15日、不可抗力宣言を行っている中国への銅精鉱の出荷を一部再開した。ターコイズ・ヒル・リソーシズでは3月30日、中国政府によるCOVID-19感染拡大防止のための国境封鎖によって、中国への出荷が停止し、同国向けの銅精鉱供給契約について不可抗力宣言を行っている。同社は今後もモンゴルのウランバートルを経由する代替ルートなど、複数の方策を検討していくとしている。

同鉱山は2019年に年間14.6万tの銅精鉱を生産。2022年10月予定の坑内掘り開始後は年間48万tの生産を見込んでいる。保有権益はターコイズ・ヒル・リソーシズが66%、モンゴル国有企業のエルデネス・オユトルゴイが34%。

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

4月1日	4月7日	4月12日	4月16日	4月21日	4月26日
1,020	1,040	1,030	1,060	1,050	1,080

### 2. 銅地金生産・出荷・生産者在庫(2021年3月分=令和3年3月分)

	2021年3月	2021年2月比	2020年3月比
生産	123,521 t	+9.1%	-9.8%
出荷	137,582 t	+24.2%	-2.9%
在庫	112,103 t	-9.8%	+6.8%

(出典)日本鉱業協会

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は2か月連続の減少。内訳は内販が前月比6.9%増、前年同月比3.5%増の7.2万tで、ともに2か月ぶりの増加。輸出は前月比49.0%増、前年同月比6.7%減の6.7万tで、それぞれ3か月ぶりの増加と3か月連続の減少。内販のうち電線向けは前年同月比8.4%増の4.7万tで2か月ぶりの増加、伸銅品向けは前年同月比0.5%減の2.3万tで2か月連続の減少。在庫は前月比が5か月ぶりの減少、前年同月比は15か月連続の増加となった。

### 3. 需要部門別動向

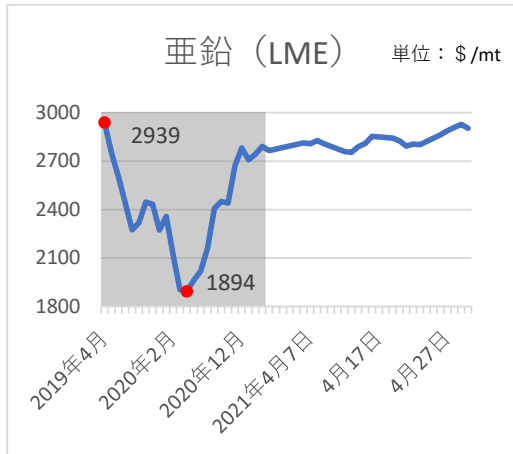
(一社)日本電線工業会によると、2021年3月の銅電線出荷は前年同月比0.9%増の5.9万t(推定)と18か月ぶりに増加した。うち内需は前年同月比1.0%増の5.8万tで14か月ぶりの増加、輸出は4.2%減の1,500tで4か月連続の減少。内需の部門別では、電気機械が7か月連続、自動車が増加、通信が2か月連続、電力が2か月連続、建設・電販が14か月連続の減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2021年3月の伸銅品生産は前年同月比13.5%増の7.0万t(速報)と3か月連続の増加となった。品種別には、半導体、コネクタ、自動車端子向けの銅条が前年同月比22.4%増で6か月連続の増加。自動車端子向けの黄銅条は19.9%増で5か月連続の増加。コネクタ向けの青銅板条は19.6%増で2か月ぶりの増加。エアコン向けの銅管は6.1%減で14か月連続の減少となった。

## 亜鉛

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ \$2,700 台から \$2,900 台に上昇
- ・ 4月29日は2019年4月以来の高値となる \$2,928

(2019年4月～2021年3月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の4月19日発表によると、2021年1～2月の世界の亜鉛需給実績は以下のとおりで、需給バランスは8.4万tの供給過多だった。

<2021年1～2月の世界の亜鉛需給実績表>

単位：千トン

	2021年1～2月 実績	2020年1～2月 実績	増減率	2021年年間予測 (2021年4月発表)
鉱石生産	2,141	1,956	+9.5%	12,924
地金生産	2,330	2,268	+2.7%	14,128
地金消費	2,247	2,048	+9.7%	13,775
需給バランス	+84	+220		+353

(うち、中国の亜鉛需給実績)

	2021年1～2月 実績	2020年1～2月 実績	増減率
鉱石生産	690	549	+25.8%
精鉱輸入	323	332	-2.6%
地金生産	1,066	1,007	+5.9%
地金輸入	86	46	+89.0%
地金消費	1,070	896	+19.5%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

国際鉛亜鉛研究会 (ILZSG) の 4 月 30 日発表によると、2021 年の世界の亜鉛需給予測は以下のとおりで、需給バランスは 35.3 万tの供給過多になると予測されている。

<2021年の世界の亜鉛需給予測>

単位：千トン

	2021年年間予測 (2021年4月発表)	2021年年間予測 (2020年10月発表)	増減率
鉱石生産	12,924	13,143	-1.7%
地金生産	14,128	13,986	+1.0%
地金消費	13,775	13,523	+1.9%
需給バランス	+353	+463	

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

### 3. 供給障害

#### ◆ ボルカン、セロ・デ・パスコ亜鉛鉱山の労働組合がストライキ実施(ペルー)

ボルカン(ペルー)がペルー中部で操業するセロ・デ・パスコ亜鉛鉱山の労働組合は、4月7日よりストライキを開始した。労働組合は2020年利益の8%の分配と、COVID-19禍での操業に対する健康と安全基準の改善を要求している。操業への影響など、ボルカンはコメントに依拠していない。セロ・デ・パスコ亜鉛鉱山では2019年に1.8万tの亜鉛を生産している。

#### 【国内】

##### 1. 建値推移(千円/t)

4月1日	4月13日	4月16日	4月23日
364	349	364	346

##### 2. 亜鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2021年3月分=令和3年3月分)

	2021年3月	2021年2月比	2020年3月比
生産	47,070 t	+12.7%	+22.4%
出荷	51,466 t	+11.4%	+2.3%
在庫	59,784 t	-7.0%	-9.4%

(出典) 日本鉱業協会

生産は前月比が3か月ぶりの増加、前年同月比は4か月ぶりの増加となった。出荷は前月比が2か月連続の増加、前年同月比は6か月連続の増加となった。在庫は前月比が2か月連続の減少、前年同月比は4か月連続の減少となった。

### 3. 需要部門動向

2021年2月の亜鉛めっき鋼板生産は前年同月比4.0%減の73.4万tで、2か月ぶりの減少となった。

(一社)日本伸銅協会によると、2021年2月の伸銅品生産は前年同月比5.1%増の63,731t(確報値)で、2か月連続の増加となった。黄銅製品では、黄銅条が13.3%増の8,237tで4か月連続の増加。黄銅棒が5.8%増の14,912tで13か月ぶりの増加となった。

#### 亜鉛関連製品生産統計(2021年2月分=令和3年2月分)

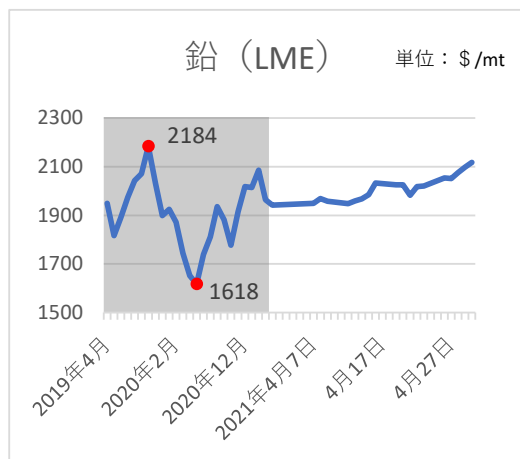
	2021年2月	2021年1月比	2020年2月比
亜鉛めっき鋼板	734千 t	-10.6%	-4.0%
黄銅製品	26,309 t	+10.8%	+7.3%
亜鉛ダイカスト	1,299 t	+11.4%	-20.0%
酸化亜鉛(亜鉛華)	4,796 t	+11.0%	-8.2%

(出典)一般社団法人日本鉄鋼連盟、経済産業省生産動態統計調査

## 鉛

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ \$1,900 台から \$2,100 台に上昇
- ・ 4月30日は2021年2月以来の高値となる \$2,117

(2019年4月～2021年3月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の4月19日発表によると、2021年1～2月の世界の鉛需給実績は以下のとおりで、需給バランスは3千tの供給過多だった。

<2021年1～2月の世界の鉛需給実績表>

単位: 千トン

	2021年1～2月 実績	2020年1～2月 実績	増減率	2021年年間予測 (2021年4月発表)
鉱石生産	760	693	+9.6%	4,748
地金生産	1,934	1,771	+9.2%	12,068
地金消費	1,931	1,755	+10.0%	11,972
需給バランス	+3	+16		+96

(うち、中国の鉛需給実績)

	2021年1～2月 実績	2020年1～2月 実績	増減率
鉱石生産	318	253	+25.6%
精鉱輸入	100	98	+1.5%
地金生産	765	622	+23.0%
地金輸入	5	4	+7.6%
地金消費	763	633	+20.6%

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

国際鉛亜鉛研究会(ILZSG)の4月30日発表によると、2021年の世界の鉛需給予測は以下のとおりで、需給バランスは9.6万tの供給過多になると予測されている。

<2021年の世界の鉛需給予測>

単位：千トン

	2021年年間予測 (2021年4月発表)	2021年年間予測 (2020年10月発表)	増減率
鉱石生産	4,748	4,719	+0.6%
地金生産	12,068	12,080	-0.1%
地金消費	11,972	11,888	+0.7%
需給バランス	+96	+192	

(出典) 国際鉛亜鉛研究会

## 【国内】

### 1. 建値推移(千円/t)

4月1日	4月16日
276	279

### 2. 鉛地金生産・出荷・生産者在庫(2021年3月分=令和3年3月分)

	2021年3月	2021年2月比	2020年3月比
生産	13,721 t	-2.2%	+20.7%
出荷	17,025 t	-12.3%	+24.1%
在庫	8,543 t	-28.8%	-32.7%

(出典) 日本鉱業協会

生産は前月比が3か月連続の減少、前年同月比は3か月ぶりの増加となった。出荷は前月比が3か月ぶりの減少、前年同月比は5か月連続の増加となった。在庫は前月比が3か月連続の減少、前年同月比は5か月連続の減少となった。

### 3. 需要部門動向

2021年2月の自動車生産台数は前年同月比8.4%減の70.5万台で、2か月連続の減少となった。また、二輪車生産台数は前年同月比7.7%増の5.6万台で、13か月ぶりの増加となった。

(一社)電池工業会によると、2021年2月の自動車用鉛蓄電池のメーカー販売個数は、新車用、補修用、二輪車用を合わせた総合計で202.6万個(前年同月比2.0%減)と3か月ぶりの減少、自動車用以外の鉛蓄電池は49.3万個(2.0%減)と2か月連続の減少となった。その結果、鉛蓄電池のトータル出荷は251.9万個(2.0%減)となった。



鉛関連製品生産統計(2021年2月分=令和3年2月分)

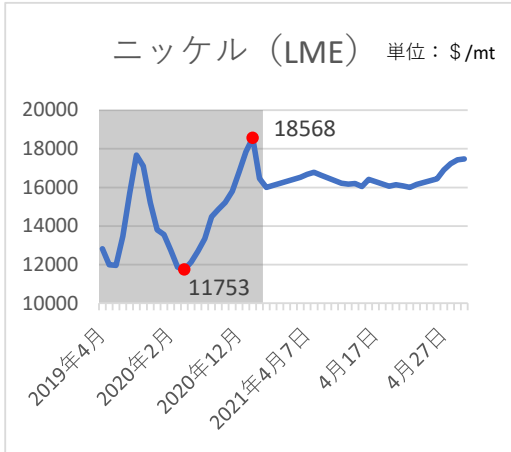
	2021年2月	2021年1月比	2020年2月比
自動車	704,800台	+2.6%	-8.4%
自動車用鉛蓄電池(鉛量 t)	15,672 t	+8.3%	+2.2%

(出典)一般社団法人日本自動車工業会、経済産業省生産動態統計調査

## ニッケル

### 【海外】

#### 1. 価格推移



- ・ \$16,000 台から \$17,000 台に上昇

(2019年4月～2021年3月の値は月平均)

#### 2. 需給動向

国際ニッケル研究会 (INSG) の 4 月 20 日発表によると、2021 年 1～2 月の世界のニッケル需給実績は以下のとおりで、需給バランスは 1.0 万tの供給過多だった。

<2021年1～2月の世界のニッケル需給実績表>

単位: 千トン

	2021年1～2月 実績	2020年1～2月 実績	増減率	2021年年間予測 (2021年4月発表)
鉱石生産	374	348	+7.7%	2,824
地金生産	423	387	+9.4%	2,718
地金消費	414	358	+15.6%	2,673
需給バランス	+10	+29		+45

(うち、中国のニッケル需給実績)

	2021年1～2月 実績	2020年1～2月 実績	増減率
鉱石生産	16	17	-5.9%
地金生産	121	115	+5.7%
地金消費	227	185	+23.0%

(出典) 国際ニッケル研究会

国際ニッケル研究会(INSG)の4月28日発表によると、2021年の世界のニッケル需給予測は以下のとおりで、需給バランスは4.5万tの供給過多になると予測されている。

<2021年の世界のニッケル需給予測>

単位：千トン

	2021年年間予測 (2021年4月発表)	2021年年間予測 (2020年10月発表)	増減率
鉱石生産	2,824	2,804	+0.7%
地金生産	2,718	2,586	+5.1%
地金消費	2,673	2,518	+6.2%
需給バランス	+45	+68	

(出典) 国際ニッケル研究会

### 3. 供給障害

- ◆ グレンコア、設備故障によりムリン・ムリン・ニッケル・コバルト鉱山の操業を縮小(豪)

グレンコア(スイス)は3月22日、子会社のミナラ・リソーシズ(豪)が西オーストラリア州で操業するムリン・ムリン・ニッケル・コバルト鉱山においてHPALの硫酸設備が故障し、一時的に操業を縮小していることを発表した。2基のファンのうちの1基に障害が起り、修理を行いながら生産量を減らして操業を続けているが、復旧までの期間などは明らかにされていない。また、今回の故障による爆発や負傷者はいないとしている。ムリン・ムリン鉱山では2020年に3.6万tのニッケルと3千tのコバルトを生産している。

- ◆ ノリリスク・ニッケル、オクチャブリスキー鉱山の早期再開で2021年生産計画量を上方修正(露)

ノリリスク・ニッケル(露)は4月19日、地下水の浸水により操業を一部停止していたシベリアのオクチャブリスキー鉱山とタイミルスキー鉱山のうち、オクチャブリスキー鉱山が予定よりも早期に再開したことを受け、2021年生産計画量を小幅に上方修正した。ニッケルは18.5~19.5万tの生産計画量に対して0.5万tの上乗せ、銅は32.5~34.5万tから1.0万t上乗せした。ノリリスク・ニッケルでは二つの鉱山の一部操業停止を受け、3月に2021年生産計画量を下方修正していたが、再度の見直しとなった。オクチャブリスキー鉱山はすでに60%の稼働率で操業しており、4月中に全面復旧する。タイミルスキー鉱山の再開予定は6月から変更されていない。両鉱山では2020年に560万tの硫化鉱の銅鉱石とニッケル鉱石を生産しており、同社国内生産の36%を占めている。

**【国内】**

**メタルニッケル生産・出荷・生産者在庫(2021年3月分=令和3年3月分)**

生産は2021年2月比22.1%増、2020年3月比16.6%増の5,605tで、それぞれ2か月ぶりの増加と7か月ぶりの増加となった。

## 金

### 【海外】 価格推移



- ・ 前月から引き続き \$1,700 台を推移

(2019年4月～2021年3月の値は月平均)

### 【国内】

#### 1. 建値推移(円/g)

4月1日	4月2日	4月5日	4月6日	4月7日	4月8日	4月9日	4月12日
6,106	6,172	6,176	6,176	6,159	6,150	6,197	6,172
4月13日	4月14日	4月15日	4月16日	4月19日	4月20日	4月21日	4月22日
6,117	6,140	6,112	6,200	6,237	6,183	6,207	6,258
4月23日	4月26日	4月27日	4月28日	4月30日			
6,230	6,195	6,222	6,222	6,216			

#### 2. 金地金生産・出荷・生産者在庫(2021年3月分=令和3年3月分)

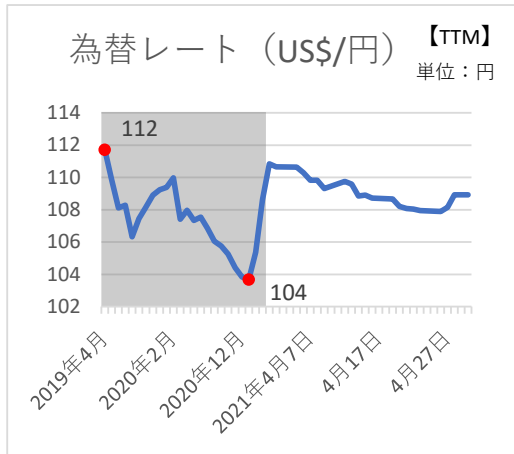
	2021年3月	2021年2月比	2020年3月比
生産	10,122kg	+38.5%	-6.0%
出荷	9,880kg	+34.5%	-5.8%
在庫	3,838kg	+6.7%	-28.5%

(出典) 経済産業省生産動態統計調査(生産と出荷の前年同月比については、以前の実績との間で不連続を生じたため、連続性を確保したもので計算)

生産は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は6か月連続の減少となった。出荷は前月比が2か月ぶりの増加、前年同月比は6か月連続の減少となった。在庫は前月比が3か月ぶりの増加、前年同月比は12か月連続の減少となった。

## 為替相場

### 為替相場推移



(2019年4月～2021年3月の値は月平均)

- ・ 米長期金利低下などによりドル売りが進行、\$1=110 円台から 107 円台に推移
- ・ 月末は小幅に反発し、108 円台に